

# 平成22年度決算

平成22年度の収支の状況、市債や基金の現在高などの決算(※1)状況についてQ&A(問答)形式でお知らせします。

財政課 ☎65・12220 図65・1216

**Q** 平成22年度の決算の結果はどうなりましたか？

**A** 一般会計決算額は、歳入が489億7070万円、歳出が473億6118万円、差引は16億952万円となり、さらにこの額から23年度への繰越事業の財源4億1412万円を差し引いた実質収支額は、11億9540万円となり、42年連続して黒字決算となりました。

**Q** 歳入は、昨年と比べてどうなりましたか？

**A** 昨年と比較し、市税収入は、個人市民税が減少しましたが、法人市民税の増収などにより、3億8496万円の増加となりました。また、国庫支出金は、定額給付金事業補助金の減少などにより5億9320万円の減少、一方、県支出金は12億647万円の増加となりました。これ

らの結果、歳入総額は前年度よりも38億9083万円増加しました。

**Q** 歳入を、どのように使いましたか？

**A** 一般会計歳出の内訳の第1位は福祉関係(民生費)です。慈光園建設事業や子ども手当費の増加などで、前年度より36億6522万円増加し、177億3512万円増で、支出全体の37・4%を占めました。

以下、借入金の返済(公債費)58億355万円、総務関係(総務費)51億9948万円、環境対策(衛生費)44億4287万円となっています。

**Q** 一般会計のほかに、どのような会計がありますか？

**A** 特別の目的のために設置し、一般会計とは区別して経理している特別会計と、企業会計があります。

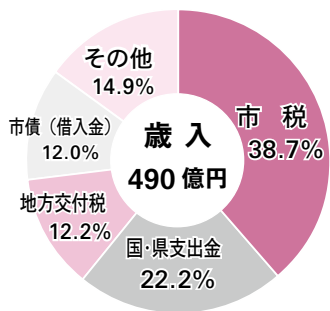
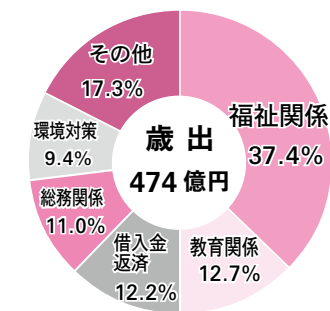
特別会計には、国民健康保険事業や公共下水道事業など10の会計があり、それぞれ保険料や使用料などの特定の収入で事業を行っています。

企業会計には、水道事業会計と工業用下水道事業会計があり、経営に要する費用は水道料金収入などによって賄う独立採算制の会計です。



## 借入金(市債)の現在高

区分	平成22年度末残高	市民1人あたり
一般会計	492億766万円	39万3,879円
特別会計	380億6,609万円	30万4,697円
合計	872億7,375万円	69万8,576円



## 特別会計の決算状況

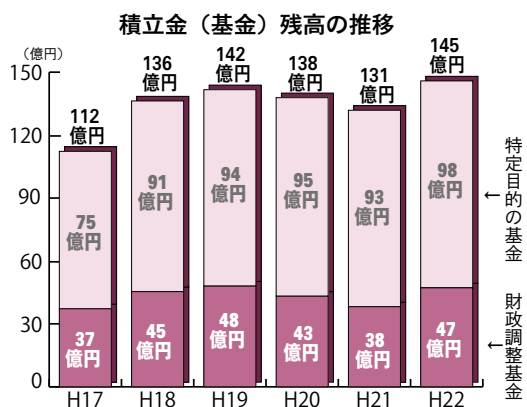
(単位:万円)

特別会計(事業名)	歳入(収入)	歳出(支出)
貯木場事業	2億4,304	1億6,346
渡海船事業	1億1,759	1億1,759
住宅新築資金等貸付事業	1,831	1,687
平尾墓園事業	2,567	2,567
公共下水道事業	53億6,157	53億3,723
工業用地造成事業	7億9,548	7億1,156
国民健康保険事業	131億2,592	129億5,727
老人保険事業	1億1,819	1億1,819
介護保険事業	109億5,952	109億5,952
後期高齢者医療保険事業	14億6,080	13億9,259
合計	322億2,609	317億9,995

## 企業会計の決算状況

(単位:万円)

企業会計(事業名)	水道事業	工業用下水道事業
収益	17億4,741	2億3,554
費用	15億6,121	1億7,849
当期純利益	1億8,620	5,705
企業債の残高	53億5,597	5,416



※1 決算…4月1日から翌年3月31日まで(会計年度)の1年間に、どのような収入(歳入)があったのか、どのようなことに使った(歳出)かをお知らせする結果報告のこと。